



Activity Report

京都府立農業大学校活動記録
2021



目次

特徴	1
目的と組織	2
農学科	3
令和3年度 学校行事	7
きずなサロン事業の取組	10
学生主体性開発プログラム	13
就業・就農に向けた取組	14
資格・免許の取得、卒業生の進路	17
研修科	18
創立100周年記念式典	20
農大マルシェ	21
卒業生のスマイル	23

本校の特徴

① しっかりとした生産能力を身につけることができます。

豊かな自然に囲まれた環境で、農業生産の専門的知識を中心としたカリキュラムです。農家や農業法人への派遣実習、インターンシップを行います。

② 現実的な経営能力を身につけることができます。

農家・農業法人と連携した経営分析、流通現場や販売活動を通してのマーケティング経験を行います。

③ 幅広い視野と強固な実践力を身につけることができます。

実習を中心としたカリキュラムで実践力を身につけるとともに、現場と連携した座学によって幅広い視野の現実的な知識と方法論を習得することができます。

④ 社会人として不可欠なコミュニケーション能力を身につけることができます。

寮生活や地域活動を通して、幅広い人間関係とコミュニケーション能力を身につけることができます。

⑤ 在学中に就農などに必要な資格等を取得することができます。

農業簿記検定試験や狩猟免許等の就農に有利となる資格を取得するための講義を受講することができます。

⑥ 全寮制での生活を通して、規則正しい生活が身につく、豊かな人間性が獲得でき、幅広い人間関係を構築することができます。

⑦ 卒業後も、府内7箇所にある京都府農業改良普及センターが就農した卒業生を支援します。

⑧ 授業料・入学料の免除を受けることができます。

一定の条件を満たす者は、授業料及び入学料相当額の貸与を受けることができ、卒業後5年間京都府内で就農(雇用就農を含む)した場合は、全額、返還が免除されます。

目的と組織



目的

農業を志す方や農業者に対し、農業に関する技術や知識を習得するための教育や研修を行うことにより、農業の担い手となる人材を養成します。

組織

農学科 (2年制)

農業の担い手を養成するための実践的な教育

○野菜経営コース ○茶業経営コース

■ 修学年数・定員 2年(全寮制)・1学年20人

■ 教育内容 収益性の高い京野菜や宇治茶生産の担い手となる人材を養成するため、実践的な栽培技術や経営手法を習得するための授業を行っています。

教養科目	国語ⅠⅡ 情報処理ⅠⅡ 農業基礎	専攻科目	園芸演習、葉根菜類 果菜類、花き類 園芸施設概論ⅠⅡ 園芸経営ⅠⅡ
共通科目	農業簿記、経営分析 植物生理ⅠⅡ、農業基礎、作物概論 園芸概論(野菜・花き)、茶業概論 農業経営、作物保護 農業機械、農業機械操作論 土壌肥料、農産加工・調理 農学実験、就農計画、農政時事 気象学、市場流通論、 マーケティング論 農業生産工程管理(GAP) 農業生産工程管理(GAP)演習 主体性開発プログラム	専攻科目	茶業演習 茶生産ⅠⅡ、茶製造 茶病害虫・茶土壌肥料 茶審査・製茶化学 茶経営ⅠⅡ
		実習 共通	基本実習 専門実習 作物実習 農家派遣実習

研修科 (短期)

多様な担い手を養成するための研修講座等

○就農ステップイン講座 ○農業機械士養成研修

農学科1年生

入学後、農機具の使い方や小農具の使い方などの基本を習得します。
緊張感をもって取り組みました。

実習で日常的に使用する鍬の使い方を
学び、畝を立てました。



トップカーの使い方、使用上の注意点を
学びました。

トラクタの安全な運転方法について
学びました。



草刈機の使用方法について学びました。

《実習は野菜経営コースと茶業経営コースに分かれて行います。》

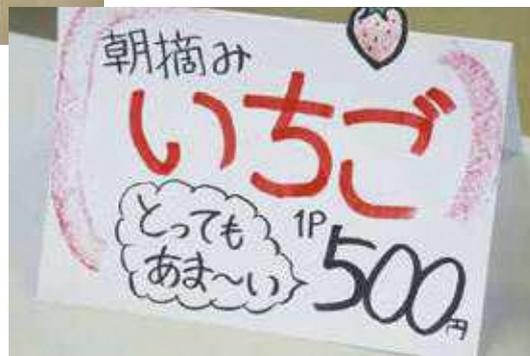
農学科1年生

野菜経営コース



授業では基本的な知識を習得する他、販売促進のため、POP作成方法など実践的なことも学びます。

【POPの作成】



各野菜の出荷調製の仕方を学び、実際に直売所や市場へ出荷しました。

日本の農業の基礎である水稲について野菜経営コースでもしっかりと学びました。



農学科2年生

野菜経営コース

施設野菜 グループ

養液栽培など施設園芸に係る基礎技術を学びました。



伝統野菜 グループ

京の伝統野菜を中心に、広く一般野菜の技術も学びました



露地野菜 グループ

露地野菜を中心としながら施設栽培の技術も学びました



野菜・花き グループ

野菜だけでなく花の栽培技術についても学びました



農学科1.2年生

茶業経営コース

茶摘採(可搬型)

初めて茶の摘採を経験する1年生を2年生の先輩が優しく教えてくれます。



茶摘採(乗用型)

初めての乗用摘採機に緊張しつつも、うまく摘採できました。

茶製造(粗揉工程)

新しく導入されたコンピュータ制御の粗揉機の技術を習得するぞと意気込む2年生。



販売実習

農大マルシェで和紅茶を販売、売れるかな？
評判は上々で、後日新聞にも取り上げられました。

令和3年度 学校行事

令和3年4月8日 入学式

野菜経営コース15名、茶業経営コース3名、合計18名の新入生たちが農大生活をスタートさせました。

河村名誉校長からエールが送られ、2年生代表が歓迎のメッセージを送りました。



令和3年4月14日 歓迎スポーツ大会

新1年生を温かく迎え入れ、スポーツを通して会話が生まれました。



令和3年7月5日・8日 2学年プロジェクト互見会

プロジェクト活動で栽培している野菜や茶の管理・生育状況を説明し、質問や助言、提案を受けることで、今後のプロジェクト活動に役立てています。

令和3年7月17日 農大マルシェ2021

詳細は、21ページ～22ページに掲載しています。

農業大学校を府民の方々や入学志望者に知っていただくとともに、農業の魅力を多くの人に伝えるため、「農大マルシェ2021」を開催しました。

●午前9時から12時まで ●参加総数 約500人

令和3年10月1日 農作業安全講習会

農作業による事故を未然に防ぐためには、農業機械の構造や安全な使い方を理解し、常に安全作業を心がける必要があります。京都府農業機械士協議会から講師を招き、農学科の学生を対象とする農作業安全講習会を開催しました。



令和3年10月5日 体育祭

教職員も参加し、秋の一日を楽しみました。



令和3年11月13日 創立100周年記念式典

詳細は、20ページに掲載しています。

農業大学校は、大正9年（1920年）に府立農業練習生制度としてスタートし、昨年創立100周年を迎えました。創立100周年記念事業実行委員会が記念式典・記念石碑除幕式・記念シンポジウムを開催しました。

令和4年1月18日 東海・近畿ブロック農業大学校学生研究・意見発表会（リモート開催）

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、岐阜県主催で、WEB会議システムを利用してリモート形式で開催されました。

京都府立農業大学校からの発表

研究発表の部

2年生 田中颯真（野菜経営コース）
「単為結果性トマトは経営の主力になりうるか」



意見発表の部

1年生 井上はるな（野菜経営コース）
「アグリガールが変える地域の未来」



令和4年2月25日 実践プロジェクト成果発表会

今年度の実践プロジェクト成果発表会は、コロナウイルスの感染拡大防止の観点からWEB会議システムを利用してリモート形式で開催しました。

学生は1年間取り組んできた実践プロジェクト成果を15分間で簡潔にわかりやすくまとめ発表しました。

京都府関係者など外部の方から実践内容に対する質問だけでなく、就農・就業に向けての助言や激励も寄せられました。



実践プロジェクト成果発表会の発表様子



発表を待つリモート教室の様子

令和3年度 実践プロジェクト課題一覧

コース	専攻	氏名	発表課題名
野菜経営	施設野菜	川崎 朔也	トマトの長期採り栽培とその補完品目の選定
		岸本 礼央	施設野菜での経営確立
		松尾 恭輔	水稻を主体とした農業
		森 純奈	私が考える複合栽培の実現に向けて
	伝統野菜	金山 樹	京野菜を中心とした栽培
		川崎 天護	ネギの費用対効果と補完品目による経営収支
		村田翔一郎	九条ネギを中心とした栽培
	露地野菜	碓井 弥生	将来に向けた栽培
		田中 颯真	売上一位を目指して
		東口 貴洋	九条ネギを中心とした複合経営
	野菜・花き	岩尾 咲菜	野菜と四季折々の花壇苗の複合経営
		坂本 大河	バラを中心とした複合経営
		田中 光莉	軟弱野菜とその他の野菜・花きの複合経営
西原 大祐		トマトの高糖度栽培の挑戦と、トマトの補完品目の模索	
茶業経営	芦田 銀河	煎茶の露天栽培と直掛け被覆栽培の比較実験と茶期以外の野菜栽培	
	千代 恭平	農大産和紅茶と愉快的な野菜達	
	南山 幹太	茶と野菜の複合経営の検討	

令和4年3月4日 卒業式

野菜経営コース14名、茶業経営コース3名、合計17名が巣立ちました。

岡本校長が卒業生一人ひとりに餞の言葉を添えて卒業証書を授与し、河村名誉校長が期待の言葉を送りました。

コロナ禍のため、参列者は少なかったものの、心温まる卒業式になりました。



きずなサロン事業の取組

(1) 地域とのきずな

●農産物販売実習を通して府民とふれ合い

年月日	令和3年7月～12月 計6回
場所	京都府綾部、福知山、舞鶴総合庁舎
出席者	2学年12名(2名×6回)、農大職員

新型コロナウイルスの影響でしばらく実施できなかった販売実習を感染対策を徹底し行いました。お客さんとの対話の大切さや自分たちが丹精込めて育てた野菜を買ってくれた時の喜びを身をもって体験することができました。



夏の販売実習(京都府綾部総合庁舎)



秋の販売実習(京都府福知山総合庁舎)

●身近にできる社会貢献活動「献血」の取組

年月日	令和3年12月2日(木)
主催	府赤十字献血センター

農大は、毎年、血液が不足する冬期に、府赤十字献血センターの献血に協力しています。今年も農大校内へ移動献血車を招き、学生達が講義や実習の合間をぬって献血に協力しました。



学生や教員他、計23名が献血を行いました。



贈るきもち つなぐいのち「献血」。
社会協力の心が育っていきます。

(2) 異業種講座

● 特別授業「キャリアデザイン」

就農の姿を自分らしく創造していくための特別授業(キャリアデザイン)を開講しました。

■ 「POP作成講座」

年月日 令和3年6月18日(金)

場 所 農業大学校

出席者 1学年18名

内 容 「キャッチコピーの作り方」「上手く見せるコツ」「レイアウト」について、笠置町商工会の北西孝司氏から講義を受け、学生たちが生産している農産物を題材にして、消費者の目につきやすい品名や価格を示したPOPを作成しました。



■ 「野生鳥獣対策とジビエの普及促進」

年月日 令和3年8月4日(水)

場 所 農業大学校

出席者 1学年18名

内 容 中丹広域振興局農林商工部の担当者から、野生鳥獣の捕獲を推進することで、被害の低減が期待できることから、ジビエ利用の現状や課題、取組、狩猟鳥獣等について学びました。



■「人権研修」

年月日 令和3年9月30日(金)

場 所 農業大学校

出席者 1学年18名、2学年17名

内 容 ハラスメント等の人権侵害を起こさないために気をつけることを学ぶ目的で研修を行いました。怒りのタイプを診断して自分の性格を知る方法を演習で学んだり、ストレスの原因になる事象に対しては、前向きに受け止める考え方を教えていただきました。



■「農業簿記検定試験対策講座」

年月日 令和3年10月6日(水)、25日(月)、11月8日(月)

場 所 農業大学校

出席者 1学年6名、2学年14名

内 容 11月に実施される「農業簿記検定試験」に合格するための対策講座を開催し、集中的に学びました。



■「伝統野菜（京野菜）について」

年月日 令和3年11月5日(金)、9日(火)

場 所 農業大学校

出席者 1学年18名、2学年15名

内 容 学生が就農した際に役立つよう京の伝統野菜の定義や主要な伝統野菜、ブランド認証の仕組みなどを学びました。

■「宇治茶の魅力」

年月日 令和4年1月17日(月)

場 所 農業大学校

出席者 1学年18名、2学年17名

内 容 府特産品である茶に親しみ、理解を深めるため、「宇治茶の魅力」について学びました。

■「京都府における新規就農支援制度」

年月日 令和4年1月31日(月)

場 所 農業大学校

出席者 1学年18名、2学年17名

内 容 「京都府の新規就農支援制度」について、京都府農林水産部経営支援・担い手育成課の職員から講義を受けました。講義では、京都府の農業の現状と特徴、新規就農・就業の支援施策、農業者の発展段階に応じた支援施策、京都の農業ビジネスを支援する各種事業等について学びました。

学生主体性開発プログラム

当校ではJICAが採用しているPBL（Project Based Learning）手法を参考にした「学生主体性開発プログラム」を5年前から導入しています。

このプログラムには大きく2つのねらいがあり、①農業経営者あるいは組織の構成員として仕事を円滑に進める能力と②組織の内外で他者と協力しながら目標達成する能力を養うことです。

令和3年度は、農大の直売所「みのりの館」の販売額向上に向けて、来客者等へのアンケート調査を実施し、現状分析と課題抽出、解決策の提案等について取り組みました。

● 社会人基礎力アンケートの実施

社会人としての基礎力を測るアンケートに回答しました。このプログラムの最終回に同じアンケートに答え、自分がどのくらい社会人として成長したかを実感します。



● 計画検討会及び活動

販売チームと広報チームの2つに分かれ今年度の計画を立案しました。



● 外部講師による講演会を実施

農大卒の実践農家2名を招いて講演会を実施し、経営感覚を身につけるためのノウハウについて学びました。



就業・就農に向けた取組

(1) 先進農家への派遣研修(1年生)

1年生全員が、各自の出身地を中心に優れた農業経営現場での農作業を体験しました。

- 目的**
- 先進的な農家又は農業法人の指導の下で実習を受けることにより、幅広い生産技術や経営を学ぶ
 - 農家生活を体感する
 - 就農に向けた情報を得る

期間 令和3年10月11日(月)から10月22日(金)まで10日間



オクラ調製作業



茶樹の整枝



ミズナのは種作業

派遣先

農業生産法人や農家へ18名を派遣

(株)八百一の郷、(株)農夢ほか個人農家様

(2) 農業生産法人等への就農体験実習

目的 生産や農業経営の現場を実体験するとともに、就業を前提とした実習を行うことにより、雇用側に学生の技量や農業に対する姿勢を把握してもらい、雇用へつなげる。

期間 3月以降、1回当たり1日から3日程度(12月まで随時実施)

体験先

農業法人や農家で延べ31名が体験

体験実習先一覧

(株)八百一の郷、(有)誠武農園、ロックファーム京都(株)、(株)脇本常香園、(株)松北園茶店、こと京都(株)、(株)野井農園、(株)上杉農園、ビオ・ラビッツ(株)、(株)エチエ農産、(有)あっぱるふぁーむ、(株)アグリイベリス、(株)八百丹、かみむら農園、誠農海部(株)、(株)京都杉田農園、なかがわファーム、岡田農園、赤堀農場、(有)アグリランドさんとよ

(3) 中丹地域農業士訪問

目的 地域農業の担い手となっている農業法人や模範である農業士の経営状況に学び、就農目標の実現に活かしていく。

年月日 令和3年10月26日(火)

訪問先 福知山市内

- ①(株)ファームきぬがわ
- ②(有)夜久野育種農場
- ③(有)田舎暮らし
- ④(株)小林ふぁーむ

中丹地域農業士会と共催で「農大生現地見学会」を行いました。

学生32名が、指導農業士(元指導農業士含む)を訪問し、それぞれの方から就農経緯、経営の考え方等についてお聞きしました。(①水稲+紫ずきん+万願寺とうがらし ②野菜育種、採種 ③ジビエ猟師 ④水稲+トマト)

学生からは、「たくさん質問してもその都度丁寧にわかりやすく答えてもらえて学ぶことが多かった」、「学校よりも規模が大きく、効率よく作業することを常に考えなくてはならないことがよく分かった」、「わな猟免許は取得したが、狩猟者から実際の話聞き、解体施設等見せてもらえて参考になった」等の感想が聞かれました。

この取組は、「農業後継者の確保・育成」を目的に活動している農業士会事業に位置づけられ平成23年度から開催しているもので、中丹3市を順に見学しています。



採種ほ場説明



学生からの質問に農業士が回答

(4) 丹後管内の大規模露地野菜経営農家等を視察

年月日 令和3年11月22日(月)

出席者 露地野菜専攻学生3名、丹後国営開発農地及び砂丘畑農家3名、農大職員1名

露地野菜専攻の学生が、大規模露地野菜農家や府内では珍しい海岸砂丘畑を活用し野菜栽培を営んでいる農家の視察を行いました。機械化や作業の効率化によって経営規模の大型化が進められた事例や砂丘土壌の特質を活かした特産物栽培事例を学ぶことができ今後の参考になるところが多かったと視察後の感想で述べていました。



専用コンバインを使った西洋ニンジン経営について農家から話を聞く学生



野菜の出荷形態に合わせた作業の効率化について学ぶ学生

(5) 自動運転コンバイン実演会

年月日 令和3年9月21日(火)

場所 農業大学校内

対象 1年生、2年生

園芸施設概論Ⅰ・Ⅱのカリキュラムでは、スマート農業技術に関する内容を組み込んでおり、業者の協力の下、ドローンを活用した水稻の肥料及び農薬散布や自動運転コンバインによる水稻収穫の実演会を実施しました。



(6) 草刈検定

年月日 令和3年7月～令和3年11月

場所 農業大学校内

対象 2年生

農業機械操作論実習(刈払機)の授業で学んだ作動原理、点検・整備及び安全に使用しているか、丁寧かつ迅速に草刈りができるかを確認する「草刈検定」(学科、実技試験)を実施しました。

その結果、1級に6名、2級に11名が合格しました(1級:学科、実技とも80点以上、2級:60点以上)。



各種資格・免許の取得

就農・雇用就農時に役立つ大型特殊自動車免許(農耕車限定)等の資格取得に取り組んでいます。



大型特殊自動車(農耕車)免許の試験(令和4年1月27日)

校長から合格証書を授与



●農業簿記検定3級合格者

●日本農業技術検定2級合格者

種 別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	合格	合格	受験	合格
狩猟免許(わな猟)	7	8	2	2
日本茶アドバイザー	—	4	—	—
日本茶インストラクター	0	—	1	1
毒劇物取扱者	1	0	0	0
日本農業技術検定1級	0	—	—	—
日本農業技術検定2級	2	0	33	7
日本農業技術検定3級	9	11	14	14
農業簿記検定2級	1	—	2	0
農業簿記検定3級	1	4	19	6
危険物取扱者(乙種第3類)	1	—	—	—
危険物取扱者(乙種第4類)	2	0	3	2
小型車両系建設機械運転特別教育	12	16	10	10
小型フォークリフト運転特別教育	—	11	12	12
大型特殊自動車(農耕車)免許の試験	13	14	18	18
農業機械士	14	14	18	18

令和3年度卒業生の進路

農業関係就職率 94% 就農・就業率 53%

農業法人等への就業	9名	(株)アグリイベリス、かみむら農園、こと京都(株)、(株)上杉農園、なかがわファーム、(株)八百一の郷、(有)アグリランドさんとよ
農業関係就職	7名	(株)脇本常香園、京都青果合同(株)、京都府職員、ヤンマーアグリジャパン(株)中部近畿支社、大阪中央青果(株)
その他	1名	自営業

研修科

●就農ステップイン講座

- 内容** 本格的な就農を目指している方々が、野菜の栽培技術を実習し、就農に必要な知識や情報を学ぶ講座
- 時期** 令和3年8月29日(日)、9月12日(日)、9月26日(日)、10月17日(日)、11月7日(日) 全5日間
- 対象者** 数年の間に本格的な就農を目指している方
- 受講者** 16名

府内各地から受講された方々は、聖護院だいこんと聖護院かぶ、ほうれんそうの種まきから収穫までの実習と、新規就農者の体験談等、座学とあわせて熱心に受講され、農業との関わりを深めました。



講師がクワの使い方を実演



トラクターの安全な操作方法を講習



聖護院だいこんの収穫



最終日にほ場にて受講生集合

●農業機械士養成研修

内容 農業機械に関する高度な安全知識と整備・運転・利用技術を習得する研修

時期 11月16日(火)～11月25日(木) (全7日間)

対象者 農業者等

受講者 16名



講義の様子



トラクターの運転練習



田植機を用いた講義・実技

技術検定(大特免許試験)

●農業経営力向上講座

内容 経営計画を立てることの大切さ、そのためには金銭だけでなく生産量や労働の内容と時間の把握が必要なこと、そして経営者になれば一緒に働く仲間(従業員)の気持ちをつかむことに力を注いでいることなどを4名の講師から学ぶ。

時期 令和4年1月21日(金)、1月25日(火)、2月1日(火)、3月14日(月)全4日間

対象者 就農からおおむね10年以内の新規就農者や研修中の者

受講者 41名

※令和3年度に新たに開講。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、zoomによるオンライン形式で実施。

創立100周年記念式典

農業大学校が創立から100年を迎え、京都府立農業大学校創立100周年記念事業実行委員会が式典・記念石碑除幕式・記念シンポジウムを開催し、これまでの歴史を振り返るとともに、節目を迎えた農業大学校の門出を祝いました。

日 時：令和3年11月13日(土)13時から15時50分まで

場 所：農業大学校体育館 他

出席者：実行委員会11名、知事等京都府関係者11名、京都府議会議長・綾部市長等来賓8名、パネラー4名、学生30名、同窓会員46名、教育後援会4名、農大職員9名、綾部市3名、合計126名。

農業大学校は、大正9年(1920年)に府立農業練習生制度としてスタートし、昨年創立100周年を迎えました。新型コロナウイルス感染拡大のため、1年遅れでこの11月13日に記念式典・記念石碑除幕式・記念シンポジウムを開催しました。

記念式典では、西脇知事と来賓のあいさつに続き、岡本校長が「農業大学校の歩み」を紹介した後、記念誌編集部長が3年掛けて編さんした記念誌を披露しました。

シンポジウムでは、河村名誉校長が「100年の蓄積を次の100年に繋ぐ」と題して話題提供した後、コーディネータとなり4名の卒業生とともにパネルディスカッションで今後の農大の魅力や在校生が今学ぶべきこと等について議論を深めました。



西脇知事あいさつ



記念シンポジウム



記念石碑とともに



農大マルシェ2021

農大と学生自治会は、広く府民の皆さまや入学志望者に農大や農業の魅力をもPRするため、農大産の野菜・茶・花を販売する「農大マルシェ2021」を、7月17日(土)午前中に開催しました。当日は500人の方々に来校いただき、成功裏に終えることができました。



オープニング前から大勢の来客が見られました



自治会長による開会宣言



学生手作りアーチをくぐり抜けるお客さん



コロナ禍のため屋外テントで農産物を販売



販売エリアでは整理券を配付し、密を避けるため
入場制限を設けました



農大生が作った新鮮な野菜を販売！！
野菜が安く買えると大好評でした



茶業経営コースの学生は、お茶の販売と和紅茶の試飲、煎茶の量り売りをしました



規格外品袋詰めチャレンジする来場者



卒業生が会場内で交流



教育後援会は丹後メロンを販売



入学相談ブースでは11組の方が相談に来られ、学校案内にも参加されました



中丹地域で活動する「のら×たん ゆらジェンヌ」が、加工品や特産物をそろえて出店



1年生による学校案内

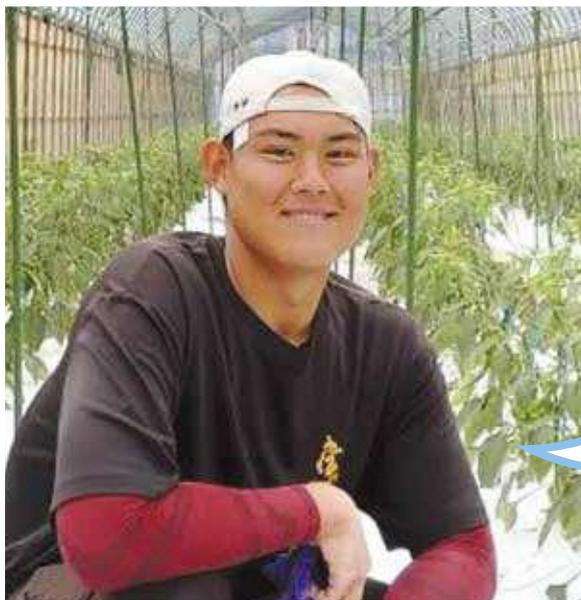


1年生のトマトハウスにて収穫体験



卒業生のスマイル

令和3年3月卒業生



のむらみつひで
野村 光英さん

私の実家は非農家です。入学して最初は知識や技術もなくゼロからのスタートでしたが、二年生でのプロジェクトや夢である自営の為に先生や先輩、同期の力を借り、知識等を身に付けていきました。

プロジェクトでは「栽培するなら良いものを」と考え、日頃からしっかりと管理を行った結果、多種多様の作物を出荷することができました。この経験は、将来自営した際の助けになると思います。

現在勤めている農業法人(久御山町)では、万願寺とうがらしの栽培を任せていただいています。農大での経験を活かして貢献し、少しずつ自分の夢へと近づいていきたいです。

いまはせしょうへい
今長谷 翔平さん

現在は、農業法人(福知山市)に勤めており、主にビニルハウスで九条ねぎの栽培と収穫・調製を行っています。

プロジェクト活動でミズナやコマツナ、九条ねぎ等の軟弱野菜を主体に取り組みを行ってきたので、その経験を最大限活かすことができています。

今後もより一層多くの野菜の知識や技術を研ぎ、経営感覚も身につけ、勤めている会社に頼りにされる人材になりたいです。



令和2年3月卒業生

きむら ちさと 木村 千紗都さん

農業系高校を卒業後、在学中のプロジェクトでは、カラフルミニトマトを栽培し、どうしたら消費者に喜ばれる野菜を届けることができるかに強い関心がありました。

現在、八幡市にあるイチゴつみとり農園で働いています。生産部に所属し、主に栽培管理を担当していますが、イチゴの収穫期にはつみとり客の対応もしています。近隣に消費者が多く、お客様の反応を直に受け改善につなげています。また、さまざまな品種を栽培しているため、日々勉強が欠かせません。

毎日忙しいですが、体に気を付けて頑張ります。



おかだ たけまさ 岡田 起諒さん

私の家は農家で祖父が果樹を栽培していました。農家を継ぐにあたり、農業基礎から農業経営まで必要な知識を学べる農業大学校に入学しました。農業大学校は全寮制で、コミュニケーション能力や協調性などが学べ、寮生活は生涯を通して良い経験だと思いました。

1年生の前半は、農業基礎をしっかり学べ、後半は応用編になり、翌年の栽培計画書を作成します。2年生になると自主性や計画性を育む授業になります。また、自己解決できる能力を育てることもでき、自分で解決できないときは先生に問題点を伺いともに解決するなど、良い授業体系になっていると感じました。

これらの経験を活かし自分の農業経営を発展できるように精進していきます。

あだち かすたか 足達 一尊さん

現在勤めている農業法人(京丹後市)では、九条ネギのほ場準備とハクサイの担当として活躍しています。

当面は、同社で技術やノウハウを身につけ、将来的には自営を考えています。





アクセス



タクシー JR山陰本線「綾部駅」下車 北西へ約5キロ
JR綾部駅からタクシーで約10分

バス あやべ市民バス JR綾部駅南口から「志賀南北線」に乗車
「殿貝バス停」下車 徒歩30分（※便は1時間に1本の割合です）

車 舞鶴若狭自動車道「綾部インター」を出て、府道77号を南に進み
府道74号を西へ、豊里小学校を北に折れて岡倉方面に進む

京都府立農業大学校

〒623-0221 京都府綾部市位田町桧前30

TEL 0773-48-0321 FAX 0773-48-0322

E-mail kyo-nodai@pref.kyoto.lg.jp

URL <http://www.pref.kyoto.jp/kyonodai/>